

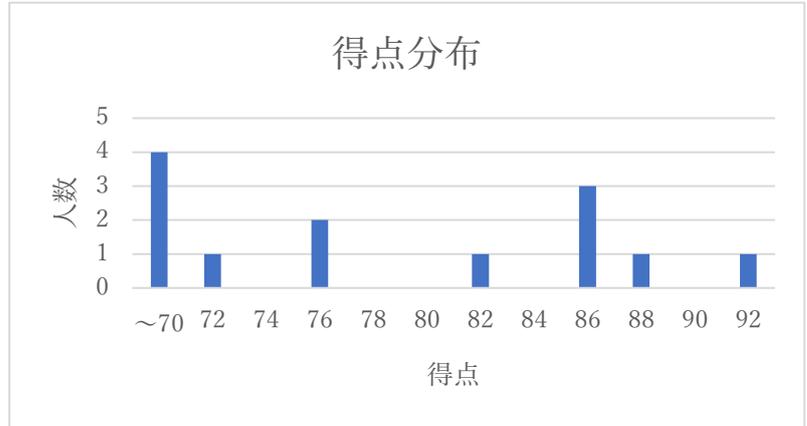
令和4年度 第3回 イベントディレクタ認定試験 講評

1. 実施概要

- ・ 実施期日 令和5年3月10日～20日
- ・ 単一選択式
- ・ 受検者 13名
- ・ 認定者 6名

2. 認定点

- ・ 認定点 80点 (100点満点)
- ・ 最高点 92点
- ・ 平均点 76点



3. 総評

回答にあたっては、講習資料をよく読んで、規則やガイドラインを正しく理解していることが求められる。

最新の IOF 競技規則および地図規定の改正を踏まえた設問もあり、正しく文章を読み取れずに失点する者が多かったようだ。前回より若干平均点が下がったが、正答率が低かった設問でも講習資料をしっかり読んでいれば正答できたはずと判断し、認定ラインは前回と同じ 80 点とした。惜しくも認定点に届かなかった者は、後述の設問のポイントを参考にして、あらためて講習資料および競技規則を読み直すことにより、正確な知識を身に付けてくれることを期待する。

4. 設問のポイント解説

以下に誤答の多かった設問のポイントを列挙する。

- ・ 同じ大会、同じトレインで、若いクラスはミドル・ディスタンス競技、高齢者クラスはロング・ディスタンス競技を実施するようなことは可能。また、ミドル・ディスタンス競技を ISSprOM の地図で開催することも可能。
- ・ リレー競技では各チームで走区毎のパターンを変えるが、全体としては同じコース（レグ）を走るようにする。長い走区や短い走区といったバリエーションを作ってもよいが、チームによってその並びが変わるよう織り交ぜてはいけない。
- ・ 法律では4月1日生まれの者は3月31日24時に年齢が加算されるので、年度末時点で前日生まれの者と同年齢となる。
- ・ 競技用の地図は、競技者にとって判読性が高い（読み取りやすい）ことが重要。地図を作成する際には、適切に取捨選択、単純化、転位、誇張を行うことが推奨される。
- ・ ISSprOM で立体構造の下層が通行できることを表す時は、上層部の地表面の状態に対応した色のストライプで表記する。橋の下が川などで物理的に通行できない時はストライプで表記はせず、橋の縁を通行不能の壁で表記する。
- ・ バタフライ・ループを採用する時には、コントロールを回る順番が逆にならないように注意する。また、バタフライの基点となるコントロールは2回通過することになるので、万が一の故障に備えての対応措置が重要である。
- ・ リレー競技の優勝設定タイムは各走区で最も速い者の合計であったが、大会進行を早めるために、IOF 規則では優勝チームの想定タイムに変更された。
- ・ コントロールのコードナンバーは、競技規則では31より小さい数字を使用しないとなっているだけだが、4桁以上を使うと電子パンチシステムが対応していないことがあるので注意する。上下逆にすると異なる番号に読める時は、下線を引いて上下を示す。
- ・ 季節によって植生状態が変化するため、大会開催の季節と同じ時期に地図調査を行うことが望ましい。

- ・コントロール設置においては、不公平・偶然性を排除することが肝要。近くに明瞭なアタックポイントがあったり、視界良好で遠くから特徴物が確認できるなど、無理のないナビゲーション精度で到達できるのであれば、穴の中に置いてはいけないということはない。
- ・イベント・アドバイザーが、すべてのコントロールの設置確認をすることは無理。誰がどのように確認したかを把握することが重要。
- ・競技者を惑わすことのないよう、コントロールは一定以上の間隔をあけて設置する。
 - フォレスト競技では、直線距離で 30m以上（トレインでも地図でも明確に異なっていない場合は 60m 以上）
 - スプリント競技では、走行距離で 25m 以上、直線距離で 15m 以上
- ・成績処理ソフトの Mulka はシェアウェアであり、ライセンス登録の条件にしたがって使用しなければならない。
- ・競技規則違反は、状況によっては必ずしも失格になるとは限らない。一方で、違反した場合の措置が規則に記載されていない限り、いかなる違反であっても失格になりうる。追従も規則違反行為なので、失格になることは当然ありうる。
- ・個人競技で、インターバル・スタートの時には同タイムは同順位となるが、チェイシング・スタートの時は着順で順位が決定する。マス・スタートおよびチェイシング・スタートの競技では着順で順位が決まるため、フィニッシュ地点に判定員が必要となる。
- ・競技時間をオーバーしたら、フィニッシュ閉鎖まで時間があっても、競技を中止して速やかにフィニッシュに向かうことが求められる。
- ・裁定委員会では、当事者から意見を聴取することも、時には大切である。最終決定をする際には、EA と委員以外を離席させてもよいし、裁定に影響がなければ同席させてもかまわない。
- ・IOF 規則の付則にある「競技形式」に、適切なコースを設定するために競技形式毎のコンセプトが説明されている。

5. 設問ごとの回答状況

設問	正答数	誤答数
(1)	13	0
(2)	10	3
(3)	13	0
(4)	10	3
(5)	12	1
(6)	11	2
(7)	6	7
(8)	8	5
(9)	13	0
(10)	12	1
(11)	12	1
(12)	11	2
(13)	8	5
(14)	10	3
(15)	12	1
(16)	10	3
(17)	10	3
(18)	12	1
(19)	9	4
(20)	12	1

設問	正答数	誤答数
(21)	12	1
(22)	8	5
(23)	6	7
(24)	9	4
(25)	12	1
(26)	11	2
(27)	11	3
(28)	8	5
(29)	9	4
(30)	8	5
(31)	8	5
(32)	8	5
(33)	2	11
(34)	10	3
(35)	8	5
(36)	11	2
(37)	12	1
(38)	11	2
(39)	11	2
(40)	11	2

設問	正答数	誤答数
(41)	9	4
(42)	8	5
(43)	13	0
(44)	11	2
(45)	12	1
(46)	2	11
(47)	9	4
(48)	12	1
(49)	13	0
(50)	7	6